

武庫川総合治水対策の効果量（試算）

| 対策施設 | | 効果量 | 主な試算条件 | |
|------|-------------------------|---|---|--|
| 流域対策 | 学 校 | 検討済 12m ³ /s | 対象箇所：114箇所 治水容量：38万m ³ （青野ダム流域以外の流域内のすべての学校） オフサイト貯留（敷地内の降雨をグラウンドに集水し、オリフィス構造でピーク降雨をカットする） | |
| | 公 園 | 検討済 2m ³ /s | 対象箇所：80箇所 治水容量：13万m ³ （青野ダム流域以外のすべての公園127箇所から選定） 公園（開設）面積0.1ha以上（公園内のため池が公園面積の多くを占めるものは除外） 基本的にオフサイト貯留、大規模なものは地形状況によりオンサイト貯留（グラウンドに降った分だけ貯留） | |
| | た め 池 | 検討済 57m ³ /s | 対象箇所：108箇所 治水容量：140万m ³ （満水面積5,000m ² 以上、流域面積0.1km ² 以上、青野ダム流域以外、水深1m分だけ治水利用） | |
| | 水 田 | 検討済 28m ³ /s | 対象面積：1,539ha 治水容量：192万m ³ （貯留水深は畦畔高上げ無しで15cmに設定、面積は圃場整備面積から減反面積、本地率（実際に作付け出来る面積）を考慮し設定） | |
| | 防災調整池 | 検討済 12m ³ /s | 対象箇所：176箇所 治水容量：147万m ³ （流域内のすべて） | |
| | 森 林 | 検討済 数値化しない | | |
| | 各戸貯留・雨水浸透型施設 | 検討済 数値化しない | 以下の対策を進めるが、洪水時における効果が保証されないため。 （浸透施設） 流域内の50,000戸に浸透ますを設置した場合、効果量は9.72m ³ /sとなる。（概算値であり対策施設の箇所等の特定ができない） （各戸貯留） 各戸に雨水貯留タンクを設置し、治水活用として利用 | |
| | そ の 他 （駐車場、棟間、大規模開発） | 検討済 数値化しない | 対策を進めるが、効果量の数値を算出するのが困難であるため、数値算入はしない。 | |
| 河川対策 | 洪水調節施設 | 遊水地 （1）結果として湛水 | 検討済 0m ³ /s ~ 39m ³ /s | 数値化しない 上流域農地、掘削無し、面積：108.3ha（13箇所）、治水容量：451万m ³ |
| | | （2）公共施設・都市施設 | 検討済 0m ³ /s ~ 43m ³ /s | -1 -1中流域公共施設、掘削、面積：5.3ha（1箇所）、治水容量：22万m ³ |
| | | （3）河川施設 | 検討済 42m ³ /s ~ 228m ³ /s ~ 298m ³ /s | 中流域に1箇所設置（面積：12ha 治水容量：30万m ³ 掘削有り） 中流域に2箇所設置（面積：64.1ha 治水容量：205万m ³ 掘削有り） 中流域に3箇所設置（面積：77.3ha 治水容量：273万m ³ 掘削有り）（3箇所個々の調節容量A：77m ³ /s、B：152m ³ /s、C：74m ³ /s） |
| | 利水ダム | 今後検討 0m ³ /s ~ 417m ³ /s | 採用しない 6つのダム（青野ダム：116m ³ /s、深谷池：11m ³ /s、山田ダム：12m ³ /s、千苅ダム：189m ³ /s、丸山ダム47m ³ /s、川下川ダム42m ³ /s）を2m水位低下 治水転用 | |
| | 新規ダム | 今後検討 0m ³ /s ~ 637m ³ /s | 採用しない 洪水調節容量：1,125万m ³ | |
| | 河道対策 | ケースA | 甲武橋地点3100m ³ /s（河道分担量） | 河床掘削のみでほぼ流下能力の確保が可能である。 |
| | | ケースB | 甲武橋地点3500m ³ /s（ " ） | ケースAと比較して低水路拡幅幅が増加するが、引堤は部分的である。 |
| ケースC | | 甲武橋地点3700m ³ /s（ " ） | ケースBと比較して低水路拡と引堤が若干増加する。 | |
| ケースD | | 甲武橋地点4400m ³ /s（ " ） | 他のケースと比較して低水路拡幅と引堤が大幅に増加する。 | |

効果量は H16モデル降雨を対象とした数値である。（甲武橋地点、青野ダム有りのケースから各流域対策施設により流出抑制された流量を示している。）
各対策施設の単独効果量である。
現時点（H18.3.21）での試算値である。